# 地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1　単元名　　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成

「B　諸地域の歴史的特質の形成」の「(3) 諸地域の歴史的特質」(ウ)を想定して作成

2　単元目標

(1) キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に，ヨーロッパの歴史的特質を理解する。

(2) ヨーロッパとその周辺地域の歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色，キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現する。

(3) ヨーロッパ世界の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

3　単元計画(全体６時間)

(1) 指導計画

・イスラーム教の成立とイスラーム文化　　１時間
・ウマイヤ朝とアッバース朝の成立　　0.5 時間
・イスラーム文化とイスラーム政権の多極化　　0.5 時間
・ゲルマン人の移動とビザンツ帝国の繁栄　　１時間
・フランク王国の発展とローマカトリック教会の成長　　１時間
・フランク王国の分裂とノルマン人の移動　　0.5 時間
・封建社会の成立　　1.5 時間（本時　0.5～1.5/1.5）

(2) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に，ヨーロッパの歴史的特質を理解している。 | ・西アジアとヨーロッパの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色，キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・西アジアとヨーロッパ世界の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 |

(3) 指導内容及び評価計画　　○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」

| 次 | 学習内容 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 知 | 思 | 態 | (B) 具体的な評価規準<br>(C) 具体的支援 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1次(2) | 【学習課題】＜単元を貫く問い＞「地中海世界は，どのような特色をもった３地域に分かれていったのか」「イスラーム教とイスラーム政権の成立により，西アジア・北アフリカ社会はどのように変化したのか」<br>【ねらい】イスラーム教とユダヤ教・キリスト教の共通点や，イスラーム社会がイラン・ギリシア・インド文化などから取り入れた点に留意しつつ，イスラーム社会の特色を適切に理解する。 | | | | | | |
| | ・イスラーム教の成立 | ・イスラーム教成立の過程について理解し，基礎的な用語を身に付ける。 | ● | | | (B) イスラーム教に関する基本的な事柄を理解している。<br>(C) 個別に支援する。 | |

| 次 | 学習内容 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 | | | (B)具体的な評価規準<br>(C)具体的支援 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 知 | 思 | 態 | | |
| 第1次（2） | | ・イスラーム教の六信五行やハラームの意義について，気候的条件などに注目し，主体的に探究する。 | | | ● | (B)イスラーム教の特色を，乾燥帯での暮らしの特色や平等の観点から説明している。<br>(C)個別に支援する。 | ・提出物 |
| | ・ウマイヤ朝とアッバース朝の成立 | ・ウマイヤ朝とアッバース朝の税制を比較し，アッバース朝の統治の影響をまとめる。 | | ● | | (B)アッバース朝の政策によりムスリムの平等が進んだことを表現している。<br>(C)個別に支援する。 | ・ワークシート |
| | ・イスラーム文化とイスラーム政権の多極化 | ・イスラーム教の教義やイスラーム文化の特色をまとめ，現代のイスラーム圏の特色理解につながる項目を探究する。 | | | ○ | ５(1)参照 | ・提出物 |
| 第2次（2） | 学習課題】「東西ヨーロッパは，どのようにして独自の世界を形作っていったのか」<br>【ねらい】ビザンツ帝国がローマ帝国の特色を一部継承しながら繁栄していく一方で，西ヨーロッパではゲルマン人国家の成立とカトリックの自立が進んだことを理解する。 | | | | | | |
| | ・ゲルマン人の移動とビザンツ帝国の繁栄 | ・ゲルマン人国家の成立を地図を基に理解する。<br>・ビザンツ帝国の全盛期の様子を理解する。 | ● | | | (B)地図を用いて，ゲルマン人の移動と国家成立の過程を理解している。<br>(C)個別に支援する。 | ・ワークシート |
| | ・フランク王国の発展とローマカトリック教会の成長 | ・フランク王国の発展とカトリック教会の自立の過程を理解する。<br>・ピピンの寄進をふまえ，カール戴冠のねらいを考察し，表現する。 | | ○ | | ５(2)参照 | ・評価問題１ |
| 第3次（2） | 【学習課題】「カール大帝没後のヨーロッパ社会にはどのような変化がおこっただろうか。」<br>【ねらい】フランク王国の分裂とノルマン人の侵入により，西ヨーロッパ社会の独自性が生まれたことを考察する。 | | | | | | |
| | ・フランク王国の分裂とノルマン人の移動 | ・フランク王国分裂の状況とノルマン人の移動範囲や成立させた国家を，地図を基に理解する。 | ● | | | (B)地図を用いて，ノルマン人の移動と国家成立の過程を理解している。<br>(C)個別に支援する。 | ・ワークシート |
| | 【ねらい】物語をもとに，中世西ヨーロッパ社会の特質を読み取り，他地域との違いを考察する。 | | | | | | |
| | ・封建社会の成立 | ・西ヨーロッパ，東ヨーロッパ，西アジア・北アフリカの民族・社会や宗教を比較する。<br>・「長靴を履いた猫」の読み取りをもとに，ヨーロッパ中世社会に関する教科書の記述を抜き出す。 | ○<br>技 | ● | | (B)10 世紀までの各地域が共通する言語と宗教をもつが，西ヨーロッパのみ聖俗の権力が二元的であることを理解している。<br>(C)個別に支援する。 | ・ワークシート<br>＜ワーク１問１～４＞<br>・ワークシート<br>＜ワーク２問５～11＞ |

| 次 | 学習内容 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 | | | (B)具体的な評価規準<br>(C)具体的支援 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 知 | 思 | 態 | | |
| 第3次（2） | | ・イスラーム世界の物語との比較を通じて，ヨーロッパ中世社会に関する考察を深める。 | | ● | | (B)ワークシートの二つの史料と教科書の記述を比較し，西ヨーロッパとイスラームの君主権の違いを考察している。<br>(C)個別に支援する。 | ・ワークシート<br>＜ワーク２問12＞ |
| | | ・西ヨーロッパ社会の特色を，政治・経済・宗教などの面から，他地域と比較しつつ考察する。 | | ○ | | ５(4)参照 | ・評価問題２ |

４　本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 二つの物語を基に，中世西ヨーロッパ社会の特質を読み取り，イスラーム世界との違いを考察する。

イ 西ヨーロッパ社会とイスラーム世界の相違に関する考察を基に，次時からの大単元「諸地域の交流・再編」を学習するのに必要な商業・都市・王権に関する視点を整理する。

(2) 本時の展開　　(○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」)

| | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
|---|---|---|---|
| 導入 | ・前時の振り返り | ・西ヨーロッパ，東ヨーロッパ，西アジア・北アフリカを比較した学習活動の要点を確認する。<br>・タブレットを用意する。 | ・タブレットでの検索は最小限とし，教科書や史料からの読み取りを重視するよう指導する。 |
| 展開 | ・「長靴を履いた猫」から読み取れるヨーロッパ中世社会 | ・史料１「長靴を履いた猫」のあらすじを読み，教科書の記述と比較することで，物語の背景にあるヨーロッパ中世社会の特色をまとめる。 | ・生徒個々の活動にならないよう留意する。グループワークで効率的な学びができるよう，生徒の状況に応じて適宜，助言する。<br>・生徒が教科書から読み取るのが困難な点は適宜解説する。<br>○ワーク２問５～11【知】 |
| | ・「千夜一夜物語」との比較 | ・史料２「博学のタワッドド」のあらすじを読み，史料１と比較することで，イスラーム世界の学問の特色や，君主権の強さを読み取る。 | ・机間指導をし，教科書・ワークシートの適切な箇所を読み取れるよう助言する。<br>・農奴と奴隷の違いなど難解な部分は適切なタイミングで解説する。<br>●ワーク２問12【思】 |
| まとめ | ・本時のまとめと課題の指示 | ・西ヨーロッパ社会の特色を，政治・経済・宗教などの面から，他地域と比較しつつ考察する。<br>・考察した内容（ワーク２問12）は，Teams の Forms を用いて提出する。<br>・ワーク２の発展問題（評価問題２）は，問12に関する助言を得た後，提出する。 | ・問 12 が未完成の者には自宅等で続きを記入するよう指示する。<br>・次時以降に問12の記述への助言を行い，発展問題（評価問題２）を自宅での課題として記述させる。<br>○ワーク２発展問題（評価問題２）【思】 |

(3) 本時の評価規準　　５(3)(4)参照

5　評価問題（評価材料）及び評価規準

(1) 提出物（レポート課題）の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

授業での学びと関連付けられる現代の諸課題を探究しようとしている。

提出物の内容

| |
|---|
| 「教科書や資料集をもとにイスラーム教の教義やイスラーム文化の特色をまとめ，それと関連するような，現代のイスラーム圏の特色の具体例となるニュース等を調べなさい。」 |

提出物の評価基準

| |
|---|
| 「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例 |
| ・教科書や資料集を適切に活用しつつ，自分のまとめに即した形で探究活動ができている。 |
| 「十分満足できる」状況（A）と判断される例 |
| ・教科書や資料集をもとにまとめた内容と，現代の社会問題を適切に関連付け，その意味や課題を主体的に探究している。 |
| 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導 |
| ・イスラーム教そのものや文化に基づいた事例を挙げることができない。<br>→他の生徒の事例を紹介しつつ，個別の助言を，回収したレポートに記入するなどの支援を行う。 |

(2) 評価問題１の評価規準【思考・判断・表現】

カロリング朝の国王側とローマ教皇側の立場やねらいの違いを比較し，説明している。

評価問題１の内容（定期考査で出題）

| |
|---|
| 「ピピンの寄進をふまえ，カール戴冠のねらいを国王と教皇の立場から説明しなさい。」 |

評価問題１の判断基準

| |
|---|
| 「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例 |
| ・両者の立場やねらいが異なることを意識して，おおむね歴史的に妥当な説明ができている。。 |
| 「十分満足できる」状況（A）と判断される例 |
| ・両者の立場やねらいの違いを明確に区別し，ピピンの寄進とカール戴冠を適切に関連付けて説明できている。 |
| 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導 |
| ・カール戴冠の当事者のねらいではなく，歴史的意義を記述している。<br>→評価ポイントを明示し，復習を促す。 |

(3) ワークシート　ワーク２問５～11 の評価規準【知識・技能】

史料の記述をもとに，教科書の記述の要点を調べまとめている。

ワークシート　ワーク２ 問５～11 の内容　　ワークシート・資料編のワークシート参照

ワークシート　ワーク２ 問５～11 の判断基準

| |
|---|
| 「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例 |
| ・史料の内容と教科書の記述の重なる点を読み取り，おおむね適切な箇所を抜き出している。 |
| 「十分満足できる」状況（A）と判断される例 |
| ・史料の内容と教科書の記述の重なる点を読み取り，設問に即した形で要約できている。 |
| 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導 |
| ・教科書の適切な箇所を抜き出すことができない。<br>→グループワークを通じて，学び合いを促す。 |

(4) 評価問題２の評価規準　【思考・判断・表現】

中世西ヨーロッパ社会とビザンツ帝国・イスラーム世界の３地域について，それぞれの特色を比較し，説明している。

評価問題２の内容（家庭学習の課題として Teams の Forms で出題）

| |
|---|
| 「フランク王国が分裂した後に成立した西ヨーロッパ社会（９～12 世紀ごろ）の特色を，ビザンツ帝国・イスラーム世界と比較しつつ，まとめなさい」 |

評価問題２の判断基準

| |
|---|
| 「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例 |
| ・中世西ヨーロッパ社会とビザンツ帝国・イスラーム世界の３地域について，相違点となる特色を適切に説明できている。 |
| 「十分満足できる」状況（A）と判断される例 |
| ・中世西ヨーロッパ社会の特色を，ビザンツ帝国・イスラーム世界の特色と適切に比較しつつ，自分なりの考察や価値判断を加えて説明することができている。 |
| 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導 |
| ・中世西ヨーロッパ社会の特色を説明することができない。<br>→他の生徒の記述を一部例示し，考察を促す。 |

6　成果と課題

・新学習指導要領の世界史探究では，これまで別々の単元として扱われていた「中世ヨーロッパ（ビザンツ帝国を含む）」と「イスラーム世界」が同一単元として扱われる一方，「十字軍以前のヨーロッパ・イスラーム世界の分裂まで」と「十字軍後のヨーロッパ・イスラーム世界の拡大と発展」が異なる大単元（ＢとＣ）として扱われる。新学習指導要領では，この扱いの変化から，中世ヨーロッパ・イスラーム世界それぞれの系統的学習より，文化圏の比較（大単元Ｂ）や交流と変化の考察（大単元Ｃ）を重視する学習活動が求められている。今回は，新学習指導要領の大単元Ｂに含まれる時代を取り上げ，初見の史料を読み解く探究活動と旧学習指導要領より踏み込む形での文化圏比較を試みた。確かに教科書の個々の記述は新旧で大差はないが，単元構想を考えてみると，大単元Ｂに含まれる古代史･中世史前半は，指導の視点・切り口に大きな変化が求められていることが明らかになった。

・授業実践では，まず，物語の読み解きを通じて，西ヨーロッパ社会とイスラーム世界の比較をグループワークで行わせ，その学習活動で得た見方・考え方を応用する形で，西ヨーロッパ・東ヨーロッパ（ビザンツ帝国）・イスラーム世界の３地域を比較する課題を提示した。この学習活動の取組を分析したところ，「単なる事例の列挙」にとどまる解答が多く，異なる文化圏の発展の方向性の違いや発展水準の差を比較･評価するところまで踏み込んだ解答が少なかった点が大きな課題として感じられた。これまでの歴史学では，「大航海時代以前は，（文化・経済的に）遅れたヨーロッパ世界に対し，進んだイスラーム世界・アジア世界であった」点をいかに認識させるかが課題であり，本実践もその大前提の上に構想した。しかし，生徒の取組をみると，「文化間の優劣を軽々しく論じてはいけない」という文化相対主義につながる抑制感が根底にあるのではと感じられた。そのため，全体として西欧と東欧・イスラームの優劣を論じさせるのではなく，文化や経済など分野ごとの発展度の違いを論じさせるように留意すべきであった。また，西欧の君主権の弱さが後の歴史とどうつながるかなど，以降の見通しについて言及することも必要である。

・実践と生徒の成果物提出にあたっては，生徒のスマホ・タブレットを活用し，Teams と Forms を用いた。本校では，Teams と Forms を日頃から利用していることもあり，生徒の取組はスムーズであった。また，成果物の比較や評価作業が紙媒体に比べて容易であり，時間短縮につながった。今後も積極的に活用していきたい。

7　参考文献

・『世界の歴史 10　西ヨーロッパ世界の形成』（佐藤彰一・池上俊一　中央公論社　1997 年）
・『ふしぎなキリスト教』（橋爪大三郎・大澤真幸　講談社現代新書　2011 年）
・『世界史との対話（上）』（小川幸司　地歴社　2011 年）
・教科書『詳説　世界史』（山川出版社）
・資料集『ニューステージ世界史詳覧』（浜島書店）